02 不動産利活用

山形県大江町　小角　さくら

不動産利活用

～　写真と文章で空き家を生かす仕事　～

基本情報



【年　齢】
37歳
【出身地】
山形県寒河江市
【転出元】
神奈川県厚木市
【前　職】
スタジオカメラマン
【活動時期】
R6.12～現在

協力隊に応募したきっかけ

大学を卒業後「面白い仕事がしたい」という理由で13年ほど首都圏で生活をしていました。コロナ禍以降は、山形に帰省する回数も増え、その度に空の広さと山々の美しさを再認識し、四季で変わる自然の景色に心を動かされ、いつの間にか「地元に帰りたい」という願望ができました。
そんなとき、偶然訪れた大江町役場で紹介いただいた「写真と文章で空き家を生かす仕事」というミッション内容に魅力を感じ、即時応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】
空き家バンクの登録数を増やすための、更なる創意工夫！危険空き家になる前に、空き家バンクに登録していただき、町民の皆さんの安全な生活と、大切な財産を守るお手伝いをしていきたいです。
【任期後の目標】
興味があることが多いので、まだ手探り状態です！移住・定住促進に繋がるような仕事をしたいと思っています。

活動内容

●空き家バンク運営

町のホームページで、空き家物件をわかりやすく紹介。自分の目で見て文章を考え、撮影した写真をレタッチし、記事を作成しています。



バンク登録促進チラシの配布。道の駅や温泉施設など人が集まる場所にポスターを設置、空き家バンクの認知度アップに日々取り組んでいます。



●移住・定住促進

首都圏の移住セミナーに参加、自身のUターン経験を活かし、移住を考えている方に、大江町のくらしを紹介しています。

●町内の記録・撮影

町のくらしやイベントを撮影するという“裏ミッション”も担当。撮影した写真や動画は「おおえぐらし」ホームページやSNSのほか、パンフレットなどで町のPRに活かしています。他のミッションの協力隊員からも撮影を依頼されるので、仲間の隊員とのコミュニケーションのきっかけにもなっています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス） iju@town.oe.yamagata.jp （地域振興課　地域交流係）
（電話番号）0237-84-1503 （地域振興課　地域交流係）

「おおえぐらし」ホームページ　おおえぐらし - 大江町移住情報サイト
（Instagram）oe_life_yamagata

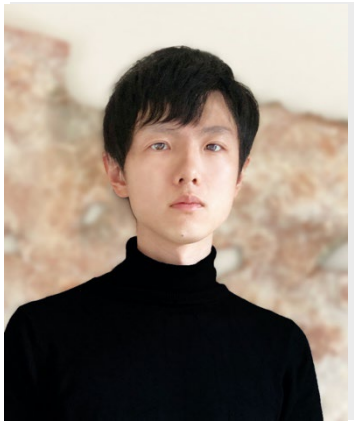
OE_LIFE_YAMAGATA

長野県諏訪市　藤森　慧

不動産利活用

～　空き家の掘り起こしと利活用　～

基本情報



【年　齢】
33歳
【出身地】
東京都東久留米市
【転出元】
兵庫県宝塚市
【前　職】
建築設計業
【活動時期】
R６.５～
（２年目）

協力隊に応募したきっかけ

諏訪地域出身の父を持ち、これまで何度も諏訪地域に訪れる機会がありました。その中で諏訪の美しい風景や、縄文時代に端を発する歴史文化に幼少の頃から関心を持ってきました。特に諏訪市は諏訪大社本宮や片倉館などをはじめとした建築的魅力とあふれるまちであると感じています。

「空き家の掘り起こしと利活用」というミッションではこれまで培った建築の専門的な能力が十分に活かせる点や、地域おこし協力隊として諏訪に住む方々に積極的に関わる機会を得られる点にメリットを感じ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

〇今後の抱負

諏訪地域には細い小路が入り組む独特のまちの風景や、建てぐるみなどの独自に発展した建築文化が今も残されています。空き家の活用を通してそれらの文化の一端を継承していくことこそが、諏訪でしかできないチャレンジだと思っています。

〇任期後の目標

歴史意匠、特にアニミズム的な建築に深い関心があります。任期後は諏訪地域に根ざした設計事務所を開業することが目標です。

活動内容

●空き家の掘り起こし・空き家見学会　ーみなに伝える方法

諏訪市は約５軒に１軒が空き家であり、統計上は年間約60戸の空き家が増え続けています。 中でも特に空き家が密集する上諏訪駅周辺エリア（約700件）を対象に掘り起こしを行っています。空き家オーナーと利活用希望者をつなげる「空き家マッチングサービス」や、まちの雰囲気を感じながら空き家をのぞいてみる「空き家見学会・相談会」などによって、空き家を知り活用につなげる機会を創出します。



●DIYイベントを介した改修　ーみなでつくる方法

地域おこし協力隊が掘り起こした空き家のリノベーションを進めています。DIYイベントを介することで市内外から広く参加者を募り、地域に開いた改修工事を行っています。

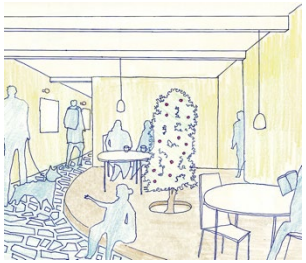
片付けからはじまり、活用方法を考え、解体し、補強し、塗装までをDIYで行う改修のメニューは、「諏訪式」空き家活用術としてオープンソース化し、みなが参照・実践できるデータベースとしていきます。



●空き家をつくりながらつかう　ーみなでつかう方法

ゆっくり進む空き家のリノベーションと並行しながら、改修の段階から現場を開いてチャレンジショップや、イベントスペース等に活用していきます。

所有者には地域で空き家を活用する具体的なイメージを、活用希望者には試しに使ってみるきっかけを提供することで、まちの中から空き家活用の機運を育んでいきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）tokei@city.suwa.lg.jp（代表）
kei-fujimori@city.suwa.lg.jp（個人）
（電話番号）0266-52-4141（内線267）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook：https://www.facebook.com/suwachiikiokoshi/
Instagram：https://www.instagram.com/suwachiikiokoshi/

Facebook　Instagram

長野県中野市　近藤　真由

不動産利活用

～　空き家が再び「誰かの場所」になるまで、人・場所・地域を繋ぐ架け橋に～

基本情報



【年　齢】
３０歳
【出身地】
神奈川県相模原市
【転出元】
神奈川県相模原市
【前　職】
建築設計
【活動時期】
R６.４～

協力隊に応募したきっかけ

建設業で店舗設計に携わるうちに、自らのお店を持ち、運営から行い、人に空間提供をしたいと考えるようになりました。
また、新築ではなく既存建物で開業したいと思っていたところ、友人からの提案で地域おこし協力隊空き家対策というミッションを知り、応募にいたりました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家はすぐに解消できるような問題ではありません。
誰かが先陣を切るのではなくひとりひとりが自分事とすることで空き家予防になり、空き家対策になると思います。
そのために相談しやすい信頼関係を築いていくことは協力隊としてできる空き家対策になると思うのでキーパーソンになっていきたいです。
将来的には空き家を活用して自分のお店を持ち地域へ空間提供することが目標です。自身が空き家活用事例になることで空き家活用促進に繋がればと思います。

活動内容

●空き家相談窓口

空き家の流通、活用などに係るフォロー。
お問い合わせフォーム、対面、またはメール、電話で相談を受け付けています。
空き家相談所を市役所とは別の場所に設けることでエリアリノベーションの拠点を目指します。
土日も相談できる地域の集まる場所になっています。



●現地調査、物件案内

空き家所有者の方からのご相談は必ず現地での対面相談のご提案をしています。
建物状況の確認と活用希望の場合は早期決断が必須の為です。建物は使わないと傷み続けます。
個人間マッチングを希望の場合は内覧案内もします。



●イベント企画、開催

空き家に関するイベントやDIYワークショップ、セミナーなどを開催しています。
イベント開催における主なテーマは
“空き家利活用の促進”と
“空き家所有者の早期決断を応援する”



その他活動やイベント告知はSNSにて随時発信中です！

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）nakanocity.akiya@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（空き家と暮らし）https://akiya-and-kurashi.com/
（Instagram）akiya_nakano
（Facebook）中野市地域おこし協力隊

京都府京丹後市　髙木　つらら

不動産利活用

～　空き家利活用の促進　～

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
奈良県五條市
【転出元】
兵庫県丹波篠山市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R6.2～R9.1

協力隊に応募したきっかけ

2年間の海外経験などを通して、地方には都市にはない「力強さ」「温かさ」「懐かしさ」があると感じるようになり、そんな地方で暮らしを営みたいと思うようになった。そんな中、友人と会うため訪れた京丹後で出会った人たちと「一緒に働きたい」と強く感じたからです。

今後の抱負・任期後の目標

業務で空き家に携わる中で、自身でも空き家を活用し、人が集まる拠点をつくりたいと思うようになり、自身でも物件を取得し利活用を推進中。今後、どんな魅力・コンテンツを提供できるか、いろんなトライアルを重ねながら、自分らしく楽しんでいきたい。

活動内容

●空き家の調査・相談

受入先である「丹後暮らし探求舎」の雇用のもと、京丹後市内でも大きな課題となっている空き家問題の解決に取り組んでいる。まずは各地域と連携し、状況・情報の収集・整理をしながら、所有者・利用者双方の相談を受け付けている。



●空き家の活用に向けた体験型イベントの企画・実施

空き家を利活用するまでの工程を、様々な角度から見て知って感じてもらえるイベントを企画・実施。今後も、こういったイベントやプロジェクトを仕掛け、空き家保有者や空き家活用検討者がはじめの一歩を踏み出すお手伝いをしている。

●空き家の利活用の実践

自らも空き家を改修して、想いと共にものが巡る、リユースショップ「まるり商店」のオープンに向けて準備中。空き家からレスキューした心がほっこりするような様々なものを販売していく予定。使い方のヒントになるような仕掛けもいろいろと。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
丹後暮らし探求舎
（メールアドレス）info@tankura.com
（電話番号）070-1399-5433
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）まるり商店　maruri_tsurara

和歌山県湯浅町　布施　和樹

不動産利活用

～　空き家リノベでまちを豊かに　～

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
大阪府高槻市
【転出元】
大阪府河南町
【前　職】
大工
【活動時期】
R6.10～現在

協力隊に応募したきっかけ

自身のストレスから不眠となり前職を退職後個人で活動。次のステップに進みたいと建築関係の働き口を探していたところ空き家部門での地域おこし協力隊の募集をしていることを知り応募した。

大学で建築学を専攻しており空き家活用やリノベーションに関する研究も行っていた。自身が経験してきたことを活かすことができ、地域創生への興味関心もあったため最適であると判断した。

今後の抱負・任期後の目標

「挑戦できるまち湯浅」を目指して活動する。まだ使える空き家の情報を整理し、空き家の活用希望者と大家さんをマッチングすることで町内に「おもしろい場所」を増やしていく。まち全体として魅力を向上させこの地で挑戦してみようと思ってもらえるようなまちにしていきたい。

湯浅町は商業の町として栄え昔は映画館があったりボーリング場があったりと人々が集まる町だった。しかし、衰退の経過を見ているからか町民はどこか諦めムードだ。まだまだこの地域もできると地域住民に思ってもらいたい。

活動内容

●空き家相談窓口地業務

空き家の大家さんと空き家の活用希望者さんをマッチングする。定期的にイベントを開催し空き家に関する情報を集め整理する。実測調査、家財整理、補助金の案内などもおこない使える空き家を増やしていくことも目的としている。



●空き家再生

空き家を再生し地域に「おもしろい場所」を増やす。リノベーションは参加型で行い、地域住民や外部の方々につくる過程で参加してもらいながらその場所を発展させていく。ワークショップも定期的に行いながら空き家を再生する。



●地域活動の可視化

地域の魅力を外に発信しなければ移住希望者の増加は見込めない。湯浅の「人」のおもしろさを伝えられるようなメディアを制作する。動画制作、ホームページ運営、ラジオなどまだ方法は模索中だが様々な方法で魅力を発信する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））fussan.12.01@gmail.com
（電話番号（個人））080-5704-9712

【活動の様子を発信しているSNS】
https://www.instagram.com/fussanosakana63/

和歌山県新宮市　岩瀬　多恵

不動産利活用

～　空き家の利活用及び移住促進を一緒に手伝ってください！　～

基本情報



【年　齢】
29歳
【出身地】
千葉県東庄町
【転出元】
千葉県習志野市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R7.10～
（0年1ヶ月）

協力隊に応募したきっかけ

新宮市出身の作家である中上健次さんのファンイベントに参加するために毎年訪れたことで、世界遺産と伝統あるお祭りが身近にあり自然豊かな市に移住したいという思いが強くなりました。協力隊への応募を考え始めたのは、マイカーや持ち家など、東京ではコストが高すぎて諦めないといけないことも地方や空き家という選択なら現実的に考えられるし、何より大好きな場所での暮らしを叶えたいという思いがあったからです。

今後の抱負・任期後の目標

世帯数も人口も減る一方の新宮が発展するためには人を呼び込むのが一番だと思います。まずは市を好きになり何度も訪れてくれる人たち（関係人口）を増やしたいです。
SNSでの観光情報の発信や、移住希望者のためのツアーも開催してみたいです。同時に空き家バンクの登録を進め、VRで空き家の状況をわかりやすく管理・発信し、移住への敷居を低くしたいと考えています。

活動内容

●空き家の調査

市全域の空き家の場所、状態を調査し、Googleマイマップ上に写真と位置を登録しています。
市の職員さんや近隣市町村の協力隊員の人たちと連携を取りながら進めています。



●SNSでの観光情報等の発信

Instagram、Youtube、noteのSNSアカウントを開設しました。



●新聞の取材

読売新聞、朝日新聞、熊野新聞社さんの取材を受けました。活動が本格的に始まっていない段階での取材ということもあり、緊張しましたが、活動を知っていただく上での第一歩となりました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）shingu.akiyabank@gmail.com
（電話番号）0735-23-3339（新宮市役所企画調整課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/shingu_chiikiokoshi

岡山県津山市　彭　思思

不動産利活用

～ 城西地区空き家コーディネート事業 ～

基本情報



【年　齢】
42歳
【出身地】
中国貴州省
【転出元】
大阪市
【前　職】
大学院生
【活動時期】
R7.7～

協力隊に応募したきっかけ

大学院での勉強を通して、地域活性化という課題に興味をもち、もともと農的な暮らしをしたいと思っていたので、地方で仕事を探しました。ゼミ室の同級生が地域おこし協力隊隊員だったこともあり、やりがいがあると思い、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

城西地区に住むことの良さを外に発信しながら、同地域で起業したいと思います。２年目となる来年には受入団体の協力をいただいて、地域の空き家をお借りし、野菜や地元の加工品を集めて販路を広がる事業を立ち上げたいと思います。

活動内容

●城西地区空き家の活用

地域の空き家に住み込み、空き家の利活用について身をもって体験しています。
今後は城西地区空き家マッチング制度の構築や地域の人と協力した空き家の掘り起こしにも力を入れていきます。



●城西まちづくり協議会事業サポート

城西浪漫館・作州民芸館の売店やカフェでの手伝いを通して、さまざまなお客様と接する中で多くのことを学び、地域とのつながりを勉強しています。地域住民との信頼関係を築くことが活動に必要不可欠だと思っています。



●地域で起業したい！

地域のために、なにかできたらいいと思い、起業したいと思っています。「重伝建」地区である城西で、空き家を活用して、人を集め、地域を活性化させたいと思います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス(個人))pennylovess3@gmail.com

鹿児島県指宿市　長山　智寛

不動産利活用

～　空き家活用コーディネーター　～

基本情報



【年　齢】
37歳
【出身地】
神奈川県川崎市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前　職】
自営業（パン屋）
【活動時期】
R5.4.24～R8.4.23

協力隊に応募したきっかけ

指宿市開聞が祖父の生まれ育った場所で，今までも何度か訪れたことがありました。指宿市は環境に恵まれ，山や海，湖，そして温泉など，魅力的な観光地であり，地方都市らしい自然の豊富さもあり，程よく便利な町です。実際にお試し滞在で訪れた際，そんな指宿の良さをもっと知りたい，多くの方に知って欲しいと考えました。
都市部でお店を経営していましたが，物も人もあふれる都会で，代替がいくらでも存在する中，「必要とされている」と感じられなくなっていました。地方移住を通し多くの方の助けになりたい，そして移住者だからこそ分かる視点で指宿の良さを伝えることで，移住者を増やし，市の未来につなぎ，自分自身を含め若い世代が「必要とされている」と感じる環境作りをしたくて応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

かき氷をメインとして茶屋を小さい規模で行いたい。
またカードゲームの販売をしているため、そちらの認知度アップも進めていきたい。
合わせてWebやSNS運用などのお仕事をいただいているので少しずつ拡大したい。

活動内容

●空き家活用

空き家バンクの開設・管理運用
空き家所有者，地域住民への「空き家活用」啓発活動
空き家活用に取り組む地域団体等への支援
活用可能な空き家の掘り起こし・データベース化
空き家活用の各種制度の実施
移住希望者と地域のマッチング支援

●移住・定住や観光・特産品など市外への情報発信業務

SNSを活用した情報発信
◯Instagram
会社で行う事業
@yubiyado.games
古民家と飲食に関わる事業
@ibusuki.hetekiki



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））kikaku@city.ibusuki.jp
（電話番号（職場））0993-22-2111（内線127）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram(個人)）　@chihiro_nagayama

鹿児島県奄美市　鈴木　厚誌

不動産利活用

～地域マーケティングの視点から関係人口を増やし、関係性を深め、
その結果として移住・定住や地域活性化につなげる～

基本情報



【年　齢】
61歳
【出身地】
大阪府高槻市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R7.2月～R9.1月

協力隊に応募したきっかけ

60歳を迎え、これまで培ってきた民間企業での事業企画や地域マーケティングの経験を、会社の利益だけでなく、地域や社会の課題解決に生かしたいと考えるようになり、地域に深く関わりながら移住を実現できる地域おこし協力隊に応募しました。
特に、空き家問題は移住・定住、地域コミュニティ、産業の担い手不足など、さまざまな地域課題につながるテーマです。

今後の抱負･任期後の目標

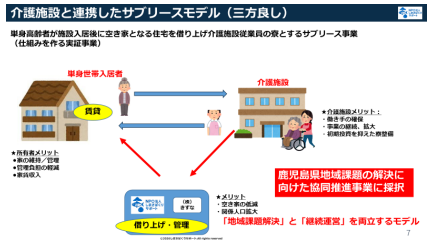
奄美に関心を持つ人や継続的に訪れる人を「関係人口」として育成する仕組みづくりを進めます。
任期後は、地域PMとして、行政・地域・民間事業者をつなぎ、関係人口の創出・育成から移住・定住、地域の担い手確保までを一体的に推進することを目指します。また、設立したNPO法人「しまさばくりサポート」を通じて、空き家の利活用や移住者支援を継続し、行政だけでは対応が難しい地域課題を解決できる持続可能な仕組みを構築します。

活動内容

●空き家利活用福祉人材定着事業

介護人材の住まい不足と空き家問題の解決を目的として、空き家を借り上げ、介護事業者の職員住宅として転貸する仕組みを構築。
空き家所有者、介護事業者等との調整や事業スキームの検証を実施。
鹿児島県地域課題の解決に向けた協働推進事業に採択

■事業スキーム図



■奄美市職員向け関係人口セミナー開催

●関係人口・ふるさと住民登録制度の推進支援

奄美市に関心を持つ人との継続的な関係をつくり、地域活動や産業の担い手、移住・定住につなげる仕組みを検討。
ふるさと住民登録制度の制度設計、対象者・会員要件の整理、登録促進、CRMを活用した関係人口の育成・可視化などを支援。



●空き家の相談・利活用支援体制の仕組化

空き家の現地調査や所有者意向調査を行い、相談対応から利活用までを支援。行政、地域、専門家、民間事業者をつなぐ体制を整備するとともに、NPO法人「しまさばくりサポート」を設立し、任期後も継続できる空き家対策の仕組みづくりを推進。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））atsushi38@gmail.com
（電話番号（個人））080-5475-5639

鹿児島県奄美市　村上　孝輔

不動産利活用

～　空き家の課題を、地域のチャンスへ　～

基本情報



【年　齢】
42歳
【出身地】
神奈川県相模原市
【転出元】
東京都渋谷区
【前　職】
会社員(MD)
【活動時期】
R7.２月～R１０.１月

協力隊に応募したきっかけ

前職では奄美の水産物流(空輸)の改善に携わり、鮮魚の定期便化や流通の見える化を通じて、生産者と都市部の消費者をつなぐ役割を担ってきました。そのご縁から宿泊事業を共同運営する中で、笠利の人・自然・文化に日常的に触れ、地域の魅力と同時に“空き家の増加”という課題の現場感を得ました。空き家の単なるマッチングではなく、基礎データづくりや合意形成、関係人口の回路整備まで踏み込む伴走者が必要だと考え、協力隊への応募を決意しました。

今後の抱負･任期後の目標

空き家の実態把握や所有者との対話を進め、賃貸・売買・改修など、活用の選択肢を広げる橋渡し役となる。地域の魅力発信や交流を通じて関係人口を増やし、空き家の活用を移住・定住につなげたい。任期後は、活動で培った経験と地域のつながりを生かし、空き家活用に限らず、地域資源を生かした事業での起業を目指す。

活動内容

●空き家の実態把握と情報整理

・駐在員と全棟調査を行い、目視判定の結果を空き家カルテに登録。情報をシステムで一元管理し、随時更新する。
・登記情報等と現地での聞き取りにより所有者を把握。手紙・QRで意向を確認し、適正管理や活用方法も案内する。
・個別相談や地域への啓発を通じ、空き家の管理・活用を促す。
・指標：回答率、面談数、賃貸・売買につながった件数、危険空き家の解消件数。



●地域への啓発と情報発信

・説明会や意見交換会で、相続登記の義務化、改修補助、家財処分への助成などを周知。
・広報物、公民館ポスター、ホームページ、SNS、ラジオを通じて、空き家の適正管理と活用を啓発。
・継続性：駐在員から空き家の新規発生・解消の情報が随時届くよう調整し、笠利総合支所で空き家カルテを更新。資料のひな形も共通化する。



●関係人口の創出と移住･定住への橋渡し

・魅力発信：Instagramで行事・人・景観・暮らしを紹介し、地域と関わるきっかけをつくる。
・29各集落ガイドマップ：暮らし方や地域のルールを伝え、移住後のミスマッチを軽減。
・住まいの相談：空き家バンクへの登録促進、民泊から賃貸への転換相談、各種補助制度の案内。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））ksomu@city.amami.lg.jp
（電話番号（職場））0997-63-1111